



学校だより

# とき・あかし錦城

2021年(令和3年)  
7月21日(第77号)  
明石市立錦城中学校

## 情けは人の為ならず

校長 谷郷昌弘

梅雨明けとともに酷暑とも言える季節がやってきました。コロナ対策はしっかり行いながら、熱中症にも十分注意しなければなりません。具合が悪くなってから体を休めるのではなく、元気なうちにこまめに水分補給し、休憩をとってください。

さて、全校集会でもお話したことですが、最近の報道で過去の「いじめ」行為が公になり、スポーツ選手が激しい非難を受けたとありました。外国の話ではありますが、日本でも十分あり得ることです。SNSで個人が簡単に情報発信できる時代になりました。そして、過去のことから、若かったからと水に流してはもらえないようです。

「軽い気持ちで」「深く考えずに」インターネットに流した情報は、内容によっては犯罪とみなされますし、データは半永久的に残ります。匿名性が高いSNSでも、発信者個人の特定はできるようになっています。「どうせわからないだろう。」「きっとバレないだろう。」は大きな勘違いです。心したいことです。

ネットのことばかり書きましたが、実生活ではどうでしょう。日常の言動は「記録」として残ることは少ないでしょう。でも、人の「記憶」には残ります。言ったりしたりした方は忘れても、言われたりされたりした方はいつまでも覚えているものです。これからの人生、いつどこでどんな人にお世話になるかはわかりません。目先の損得ではなく、他者には敬意をもって接し、感謝の気持ちを忘れないようにしたいですね。

ことわざに「情けは人の為ならず」とあります。他者を助けることは、いずれは自分が助けられることにつながります。隠れて人の足を引っ張る生き方と常に人の助けになろうとし、喜んでもらおうとする生き方と。自分にとって、どちらが良い生き方かは問うまでもありません。

## 未来をつくる若いみなさんへ

私が小学生のころの話です。ご近所に知的障害のあるおじさんがご家族といっしょに暮らしていました。そのおじさんは毎日のようにうちに入出入りしていたので、私は何の疑問もなく、そして、友達相手にしゃべる感じでやりとりしていました。

私の祖父母はともに明治生まれの田舎の人間でしたが、彼に対してごく普通に近所の人という感じで接していたように思います。ときどきはうちでご飯を食べていたこともありました。家族も、そして本人もあたりまえのような空気で。今になって思えば、人権感覚などという言葉に縁の薄い生活を送っていたであろう(実際、現在ではアウトな考えももっていたでしょう。)明治の人間が、障害のある人を特に意識していなかった様子は、幼かった私に何かしら肯定的な意識を持たせることにつながったのかもしれない。

けして豊かではない農村では、他人だろうと互いに助け合わなければ生活するのがたいへんだったと思います。そのおうちのおばあさん(彼のおかあさんです)と私の祖母はしょっちゅう互いの家に上がり込んでいましたし私もそうだったように思います。彼に対して特別視することなく、当然のようにつきあっていたのは今から思うと価値のあることでした。

障害のある人もない人もみんな得意なことがあるし、苦手なこともある。互いに足りない部分を補い合って生活できる世界が理想です。互いに認め合い、敬意をもって接する世の中でありたいものです。それを実現させるのは私たち一人ひとりであり、だれよりも若いあなたたちにかかっていると思うのです。



## 夏休みを有意義に過ごしましょう

いよいよ明日から夏休み。去年は9日間でしたから、2年ぶりに本当の夏休みがきた感じがします。みなさん、部活や課題で忙しいとは思いますが、どうか、ご家族との時間を大切にしてください。今しか持てない「時」というものがあります。

2学期の始業式は8月23日(月)です。まだまだ暑い時期ですが、大きな行事も控え、リーダーのみなさんは7月から取組を始めてくれています。見えないところでがんばってくれているたくさんの方に感謝です。そして、難しい状況の中、陰に日向にご協力くださった保護者のみなさま、地域のみなさま、ありがとうございます。これからも錦城中学校をよろしく願いいたします。みなさん、2学期もがんばりましょうね。